各省庁の「調達改善計画」の評価項目（案）

1. 現状解析

調達の現状の分析が数字できちんと明記されているか？

調達の総件数、総額、平均落札率、発注先の分析（天下りや公益法人）

高額契約と少額随契の件数・金額の比率

所管する独立行政法人の調達コストの現状把握

1. 目標の高さ

現状から、何％の改善を目指しているのか？具体的な総金額の目標。

（ＷＴとしては、総額で約10％の改善が目標）

その試算の詳細な内訳の正確さ

所管する独立行政法人の調達コスト改革への取り組み

３、計画の具体性

　　具体的な調達改善策が示されているのか

・仕様の見直し

・仕様の作成体制の見直し

・随意契約を含む「一者応札」への改善策

・透明性・・　発注先が公平か、公開されているのか、天下り先などが優位になっていないか

・調達数量の適正化

・公益法人相手の発注比率

・市場価格との調査と比較をする体制

・SLA（サービスレベルアグリーメント）の数値化

・チェック後の評価とペナルティーの存在（違約金システム）

1. 新手法への取り組み

競り下げ試行の予定数が、高額契約・少額随契で、それぞれ0.1％～0.3％以上の件数・金額になっているか

競り下げ試行で「仕様の緩和」がきちんと盛り込まれるのか？

　　共同調達の取り組み。総件数および対象範囲の拡大の状況

1. 計画の執行機関

具体的に「調達改善計画」を実行する機関が明確になっているか？

その執行機関の体制は十分か？

1. 計画の自主チェック機関

「調達改善計画」の達成度合の自主チェックのチームがあるのか、その内容は？

PDCAサイクルができているのか？

第三者的な外部評価ができているのか？

1. その他

その他の工夫や独自のアイデアはあるのか？

　　将来の方向性ビジョンがあるのか

　　民間ナレッジの吸収

　　所管する独立行政法人などへの取り組み

・議員に加えて、学者や民間などの有識者の協力を受けて評価をする。